



中 田 小

令和元年12月25日

学 校 教 育 目 標

さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい
共に生きる力を育てます。

中田小ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/>

「みんなちがって、みんないい。」

校長 中村 真弓

平成31年で始まり5月から令和元年となった1年が間もなく終わり、令和2年が始まります。この1年、保護者の皆様、地域の皆様には中田小学校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。皆様に支えられて年末を迎えられますことに感謝申し上げます。

この1年は、子どもが被害にあう不幸な事件事故が多かったように思います。また、昨年に続き風水害も想定を超えた被害が続きました。一方で、天皇陛下のお代替わりに伴い厳粛な中にも華やかな祝賀の空気も溢れました。秋のラグビーワールドカップでは日本代表チームの躍進に、流行語も生まれるほどでした。個人的には、中田小学校に着任したことが重大ニュースのトップに来る、そんな1年でした。

学校を取り巻く社会情勢の中では、令和2年度からの新しい学習指導要領の実施と教職員の働き方改革が大きな話題となっています。新学習指導要領実施に向けて、横浜市全体や区単位、学校単位での行事や教育活動の精選が行われています。学校の特色を生かしながら、ねらいを吟味した教育活動を行っていくことが必要となってきます。保護者の皆様、地域の皆様にはご理解いただかなければならないことも多くなるかと思いますが、ご協力をお願いいたします。

そんな教育活動のひとつに人権教育があります。人権週間がある12月には毎年講演会を行い子どもたちに改めて認識を促しますが、1年を通してすべての教育活動の基盤となるのが人権教育です。人権週間にちなんで、朝会で金子みすゞさんの詩『わたしと小鳥とすずと』を読みました。すずと小鳥とわたし、それぞれによいところや得意なことがあり、それはそれぞれ違うけれど「みんなちがって、みんないい。」とうたわれています。この最後の一節「みんなちがって、みんないい。」はご存じの方も多いと思います。

子どもたちにとって、自分との違いが分かりやすい人に対しては「みんなちがって、みんないい。」ことが納得しやすいようです。いろいろな点で配慮をしたり、優しく声をかけたりといった姿も見られます。ところが、自分との違いがほんの少しだったり分かりにくい人に対しては、寛容になりにくいように思えます。同年代の友だちとの違いをほんの少し感じただけで、心無い言葉をかけてしまったりすることも多々あるようです。直接顔を合わせていてもそうなので、今はスマートホンなどを使って直接顔を見ない状態で不用意に言葉を発してしまってトラブルになるケースが見受けられます。

自分を大切にできる子、自分のよいところはこういうところと言える子は、他の人のよいところもすぐに見つけられるし、大切にできると思います。大人も「みんなちがって、みんないい。」を心にとめて、子どもにかけ言葉を選びながら接していきたいものです。

学校では12月に入りインフルエンザでの欠席が見られるようになり、最終週には全ての学年に欠席者が出るようになりました。年末年始のご予定もあるかと思いますが、冬休みに体調を整え、新年に元気な姿で会えることを願っています。

令和2年もこれまで同様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

中田小学校では、近隣校に合わせて登校時刻を見直しました。令和2年4月から、現在より10分遅らせ、**開門を8:05~8:15**といたします。8:15には教室に入れるように、各登校班で調整していただけますようお願いいたします。登下校の見守りをお願いしています学援隊の皆様にもご理解とご協力をいただければ幸いです。

